

編集後記

みなさん「趣味」はありますか。
やりたいことを仕事にできる人は一握りです。
仕事にできなくても、仕事にしくても、その
やりたいことを純粋にやり続けることで、その
「趣味」は人に共感や感動を与えることができ、
周りの人を惹きつけていく。
私は今回インタビューさせていただいたお二
人の写真に惹きつけられ、普段私たちの日常に
ある風景で感動を覚えました。
私たちが暮らしているこの地域は自然が豊かで
空気が美味しくて、と当たり前理解していま
すが、写真に収められたこの地域はまるで別物
のように感動します。それは私がこの美しい風
景を当たり前と感じている証拠。
この目まぐるしく情報が飛び交う時代に生き
る私も心に余裕を持ち、標津の自然を感じるこ
とができるようになりたいと感じる写真でした。
お二人のようにやりたいことを純粋に楽しみ、
やりたいことをやり続ける。
私も「趣味」を純粋に楽しんでいこうと思います。

(M)

— Special Thanks! —

あかつきダイニング
A マート
川北郵便局
郷土料理武田
ぎんれい精肉店
くるくる2
合田商店

後藤商店書店部
標津漁協直売所
標津郵便局
セイコーマートこんどう標津店
セイコーマート標津まるよし店
セブンイレブン標津町店
大地みらい信用金庫標津支店

ファミリーレストランいしばし
福住
ホームックニコット
ボンノウシテラス
Kuni OFFICE

*五十音順・敬称略

Follow us on Facebook & Instagram & Twitter !!!

標津町内の情報などを更新！ぜひ検索してみてくださいね。

f

Facebook

ig

Instagram

tw

Twitter

— Information —

しべつろーかるふりーペーばー
sipeto N°10
Summer 2020

we are Ynet!!!!

●バックナンバーのご希望は上記までご連絡ください
●次回発行は 2020 年 10 月の予定です

2020 年 7 月 30 日 発行
発行人 Ynet.
発行所 〒086-1632
北海道標津郡標津町北 2 条西 1 丁目 1 番 3 号
標津町役場企画政策課内
TEL.0153-82-2131
FAX.0153-82-3011

しべつろーかるふりーペーばー

sipeto

Shibetsu Civic Pride Project by Ynet.

[CONTENTS]

発刊にあたって / Pick up! まちの写真館

インタビュー 20 後藤新治さん - 21 柳楽航平さん / 編集後記 / and more

Photography by Kohei Nagata

N°10
Summer
2020

Take Free

Let's Open!!!

皆々まのおかげで
3 年目突入!!
Thank you

発刊にあたって

皆さんこんにちは。本紙を手にとっていただきありがとうございます。
私たち「Ynet.」は町民活動の活性化、町内ネットワークの拡大・構築を
目指し組織された役場職員で構成するグループです。標津町には様々な
まちづくりに関係する活動をしている団体や個人の方がいて、実際にお
会いしてみると、標津町にはこんなにも味わい深い人たちがいるね、と
気づかされました。本紙の表題「sipeto(シベト)」は標津の語源になっ
たとされるアイヌ語「シベツ」と日本語の「人(ト・to)」を掛け合わせ
た造語で、標津に住む活動的な方々をたくさんの方に知っていただきたく
名付けました。
sipeto を通じて人の活動に込められた『想い』に触れて、知って、共感して、
共に活動する方が一人でも増えることになればうれしく思います。

Ynet.

今回インタビューさせていただいたお二人から貴重な写真データをお借りし
ました。この地域の素晴らしさを再認識するものばかりです。(小さい紙面では
伝えきれないのが悔しいです…泣) 本当にありがとうございました。

まちの写真館

後藤 新治 さん

柳楽 航平 さん

Shinji
Goto

後藤新治

さん

野鳥写真家



―標津に引っ越してきたのはいつ頃ですか？

昨春なのでちょうど1年前くらいですね。北海道に移住してきて10年くらい経つんですよ。北海道も広いじゃないですか、それなりにあちこち見た中で、ここが気に入ったということです。

―標津に移住を決めた理由は？

先に標津町に住むことを決めて、そこから家を探して、職を探したんです。第一の魅力は、車で15分くらいで野鳥の宝庫、野付に行けることです。あと、僕は北海道の東側のラインが好きなんです。根室や風連湖、走古丹があって、知床や斜里や網走もあって、網走にもいろいろな湖がありますよね。どこにも行きやすい。どこに行くにも2時間あれば行けますよね。そこも魅力です。それは気に入って住みますよね（笑）。

―お仕事は？

薬剤師をやっています。

―野鳥の撮影に興味を持たれたのは、北海道に来る前からですか？

それは多分僕がなんでここにいるか語らないとわからないと思うので…そもそも学生時代から海外の極地に行くのが好きで、北極圏とか南米のビーグル水道（南米の一番下）などに行っていたんです（写真を示しながら）。これは南米のパタゴニアの氷河の上なんですけど、こういう山岳写真を撮っていたんです。写真を撮るためというか、その場を体感しに行っていた感じです。これは朝日の写真ですが、こんな



見せていただいたパタゴニアの写真
デジカメの無い時代、フィルムで撮ったもの

の見たらだめじゃないですか（笑）。

そのうち僕も日本人なんで、日本もいいなということであちこち行きました。中でも北海道は極地好きの僕に合い、移住を決めたんです。北海道にきてから、もっと写真のテーマを絞ろうと思ったのと、野生動物が北海道は多いこともあって自然と鳥の写真にのめりこみだしたんですよね。あと、北海道は車での自然へのアクセスが非常に良いですね。だいたい道がついていて。これがアラスカだと道が少ないんです。けど北海道は行こうと思えば、だいたい車と歩きで行けちゃうんですね。そこが最高に良い（笑）。



PCで色々見せていただきながらお話を伺いました

―後藤さんにとって写真を撮るといのは？

写真を誰かに評価してもらいたいわけじゃなくて写真を見て楽しんでもらえれば良いかなって思いますけど、一番は自己満足ですね（笑）。写真を撮った後、RAWからJPGに現像する作業があって、そこである程度色決めとコントラストとか調整して自分の見た印象に近づける。だから結構忙しいんですね。ハイシーズンだと週末に撮って、平日に編集して、また週末に撮ってですね。

―野鳥写真を撮る時のポイントは？

だいたい遠くから見て何かいるなって思って、あの鳥だろうなって、ある程度距離を持って近づいて。当たり前だけど近寄ると逃げるので、距離が大事ですね。普段の姿を撮らないといけないうじゃないですか。あまり近付きすぎると警戒されちゃって。あくまでも自然なかわいい姿を撮りたい。

―野鳥に詳しくなったきっかけは？

トレッキングやカヌー、自転車ツーリングもするんですが、そんな時に目にする野鳥に自然と興味を持

20
渡り鳥で季節を
感じられる場所。

ちました。あとは、自分で調べるか調べないかだと思うんですけど、僕は結構調べるほうなんで、それで詳しくなっていました。特に野鳥の先生やカメラの先生がいるわけじゃなくて独学でやっています。だいたいそこら辺にいる鳥はわかりますねって言ったら言い過ぎかもしれませんが、だいたいわかります。たとえばキレンジャクという鳥はナナカマドの実が好きなんで、標津の町なかにもいるんですよ。だから通勤中でも、常に探しちゃいますね。昼休みにシメナガいないかなって職場裏の木を見てしまう。鳥にも表情があるんですよ。そこまでわかると面白いかなって。緊張しているときとリラックスしているときの鳥の顔が違うので。

―今後やってみたいことはなんですか？

やってみたいことは、やり続けているんで（笑）。小さいコミュニティで、展示会とか標津にこんな鳥がいるってわかってもらえれば良いかな。標津の人にこの地域の良さを伝えられるような写真のスライドショーとかもいいかなと思います。

―標津町の魅力は？

人が皆さん近いですね。散歩していてもコンビニで買い物していても向こうが僕のことを知っていて声をかけてくれますし。標津町とかこのエリアが好きですね。町で区切るのは行政の問題ですからね。

―標津町に期待することは？

過疎化なんで、頑張ってもらいたくなって。医療関係者としては肌で感じているので、いろいろな意味で頑張ってもらいたい。昔は良かったってみんな言うじゃないですか。でも今も良いんですよ。だからそういうような情報発信をすればいいんじゃないかな。昔は良かったの“昔”が今ここにあるよって。それから、ここのすごいところは、渡り鳥のガンっているじゃないですか。年に2回、必ずガンが頭上を通るんですね。それで季節を感じられるところですかね。そういうものを感じたい人は、世の中にたくさんいると思うんです。今リモートワークもできるようになってきているので、そういった人たちに魅力があるところですよって。渡り鳥で季節を感じられるところってそんなにないですよ。

Kohei
Nagira

柳楽航平

さん

標津高校教諭



―標津町に引っ越してきたのはいつですか？

2017年の4月に、大学を卒業してすぐに引っ越してきました。出身は島根県で、愛媛県の大学に進学し、北海道の教員採用試験を受験しました。それまで北海道には一度も来たことはなかったんですが、大学4年生の時に旅行先で出会った、日本一周していた旅行者から北海道の魅力を教えてもらい、漠然と憧れはありました。採用された時、勤務地は希望できないですが、道東に関心があるとアピールしました。



インタビュー中の柳楽さん

―標津町の印象はどうですか？

標津の人は豪快で気前がいいなと思います。僕は一人で居酒屋に飲みに行ったりするのが好きなんですけど、他所から来たということで海鮮をご馳走してくれたり、まるでRPGの旅人になったようで毎日刺激的です。環境については、食べ物も風景も気温も全部が規格外。日常的な風景が絶景で、街を歩いているだけで自然を感じます。今でもそういった風景を見たら感動するんですけど、生徒たちにはなかなか理解してもらえず、そのズレを共有するのが心地よいです。

―標津町に住んで3年経った今感じる町の魅力は？

標津に住んでいる人は絶対「えっ!？」っていうと思うんですけどアクセスの良さですね。標津町はもちろん、根室みたいな野鳥天国であったり野付半島であったり、世界遺産の知床であったり、あとは網走の方であったりとかそういった観光地や名所だったり、世界中の人が喉から手が出るくらい羨むような場所へのアクセスが最高にいいと思います。すぐに野付半島に行けるっていうのはあり得ないで

すね。なんだかんだ僕が求めている北海道像は大体標津で完結する気がするんですね。動物とか、食べ物とか、流氷とか。実は、ジュエリーアイスも標津にあるんだぞって感じで。ただそれが知られてないなって。

―カメラはいつから始めたのですか？

大学に入ってからすぐカメラを買いましたが、ちゃんと撮り始めたのは北海道に来てからです。

―フォトコンテスト等での受賞歴もありますよね？

G20の各国の観光大臣が集まった観光大臣会合というのが去年夏頃にあったんですけど、そのフォトコンテストで最優秀賞をいただいてポスターに使ってもらいました。この時は美瑛の四季彩の丘を撮りました。他には住友不動産販売のフォトコンテストで銀賞をいただきましたね。大きなフォトコンでしたし、これは標津で撮った写真だったので、結構嬉しかったですね。この写真を撮った時は、標津にもきれいな氷「ジュエリーアイス」が流れてくるって聞いて、それを撮っていて日が暮れてきた頃にキツネが来て撮ったって感じで、たまたま撮れた1枚です。それ以外では斜里のドローンフェスでのフォト甲子園とか島根のフォトコンテストなどでも賞をいただきました。



銀賞受賞の柳楽さんの作品

―写真を撮影するときに意識していることはありますか？

マイルールみたいな感じなんですけど、色んな場所に行くのでその地域とか町にちゃんとお金を落

とそうっていうのは意識してますね。せっかく北海道だしその地域のおいしいものを食べようって考えてます。

それから、一人が好きなのもあって一人で撮りに行くようにしてますね。そうすると他の人と違ったものが撮れるだろうなとか、皆が撮っているものではなくて自分視点で撮れるかなって。あとは担当している教科柄（地理・歴史）、物とか動物とかちゃんと下調べをしてから撮影に行こうと思っています。例えば、あの動物はこのカムイだよなとか、アイヌではこうだよなとか、あの遺跡ってこういうもんだよなっていうのを調べてから行ったら生徒たちにも還元できるし、説得力も出るなというので結構調べるようにしています。ゴールデンカムイにこれ出てくるからとか生徒に言えて、かわいいとかだけじゃなくて、教材になるようにと意識しています。

―今後やってみたいことはありますか？

最終的には標津で写真を撮りためて、標津で写真展とか誰かに見てもらえたら嬉しいなっていうのと、教材として写真をたくさん使っていけたらなっています。地元の子が外へ出た時に、地元のことを思い出すときに僕の写真が頭の中に浮かんでくれたら1番嬉しいなって思います。写真展も地元の人が「ああ、きれいだな」って思ってくれたら。あとはやっぱり標津になりがちなので、川北とか忠類とか崎無異とかディープな標津の方も行ってみたいなって思うので、おすすめがあったら教えて欲しいですね。

今回柳楽さんにインタビューさせていただいたきっかけは、Ynet.メンバーが柳楽さんのInstagramを見て感動し、お会いしてみたい!!という所から始まりました。その柳楽さんのInstagram。素晴らしい写真ばかりです。是非!



Kohei Nagira ▶
(@k_ng46)

